

きこえとことば通信

令和6年9月号
小金井第二小学校
こだま学級
Tel.042-385-3327

長い夏休みが終わり、2学期が始まりました。夏を挟んで心も体も一回り大きくなった子供たちから夏の思い出を聞くのを楽しみにしていました。2学期は、学校行事も多いですね。こだま学級でも各校の取り組みについても話題にし、子供たちが主体的に参加できるよう、支えていけたらと思います。保護者の皆様、在籍学級の先生方、引き続き、通級へのご理解、ご協力をよろしくお願いいたします。

★1学期の全体グループ学習★ 7月3日(水)

ここ数年恒例となっているこだま祭りを行いました。40名以上の参加があり、「ステンドウチわ作り」「しゃてき」「スーパーボールすくい」「さがしてタッチ」の4つのお店を回って楽しみました。3年生以上は店番もあり、スタンプを押す、ルールを説明する、集計するなどの自分の仕事に取り組んでいました。

★吃音グループ学習★ 7月10日(水)

新しいメンバーも加わり、自己紹介、ゲーム「木とリス」で和んだ後、「学習・どもりカルタ」をしながら札に書かれた吃音に関する体験について話しました。「みんなで遊ぼう」では、6年生が提案してくれた「花いちもんめ」を楽しみました。2回戦とも、最後は教員が一人残り、他は一方のチームに取られてしまうという、劇的な展開に大いに盛り上がりました。

★聞こえグループ学習★ 7月17日(水)

事前に募集した、お互いを良く知るために聞いてみたいこと、聞こえや補聴器について聞いてみたいことに答えていきました。昨年からのメンバーが順番に行っているスピーチタイムでは、2年生児童が自分が今はまっている「こびとづかん」について紹介してくれました。活動提案は、4年生の児童が準備してくれた「巨大ジェンガ」をトーナメント戦で楽しみました。

★理解授業★

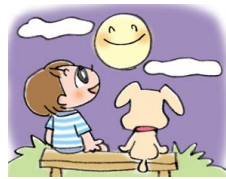
二小の1年生と2年生全クラスを対象にこだま学級の理解授業を行いました。

1年生は通級(大空教室・こだま学級)探検で、実際にこだま学級の各部屋を回りことばの学習を体験しました。

2年生は、クイズでこだま学級について知り、口の運動を体験したり、この音を発音するためには口や舌がどう動いているのかを考えたりしました。言葉だけで説明して担任の先生に手本と同じ絵を描いてもらうお絵かき伝達ゲームでは、言葉で伝えることの難しさを実感していました。実は、二小の2年生の通級児童は9名もいます。こだま学級で自分が頑張っていることを発表してくれた児童もいました。また、今回の理解授業を通して「こだま学級に行く友達が楽しそうではないなあと思っていただけれど、大変なことをしているんだなあと思いました」と感想を書いてくれた児童もいました。苦しいことに向き合うことの大変さが伝わり嬉しく思いました。

～ 2学期の予定 ～

9月	3日(火)	通級指導開始
	16日(月)	敬老の日
	23日(月)	休日
10月	14日(月)	スポーツの日
	19日(土)	二小運動会
	21日(月)	二小振替休業日
	22日(火)	二小運動会予備日
	31日(木)	※場合によっては午前通級なし 保護者会 10:00~11:30 ※年間予定から変更になっています。
11月	4日(月)	休日
	23日(土)	二小学習発表会
	25日(月)	二小振替休業日
	28日(木)	入級委員会
12月	3日(火)	2学期 個別指導終了
	4日(水)	全体グループ学習 15:15~16:30
	11日(水)	吃音グループ学習 15:15~16:30
	18日(水)	きこえグループ学習 15:15~16:30



保護者会のお知らせ

日時：10月31日(木)
10:00~11:30

場所：こだまプレイルーム

内容：講演

「子供の言葉を育てる関わり」

東京学芸大学 准教授

大鹿 綾 先生

※このほかに、出張等で通級がお休みになることがあります。各担当と通級日時をご確認ください。

難聴のあるお子さんの行事における配慮

5月の特集「聞こえにくってどんなこと？」で、難聴や補聴器についてお伝えしました。今回は、2学期に予定されている学校が多い、行事における配慮について、お伝えしたいと思います。ただし、これらは一般的に言われていることで、一人一人聞こえにくさや分かりやすさ、助けになることは異なります。どうしたらいいかをお子さんと先生で話題にいただくと、自分自身の聞こえを振り返る良い機会にもなります。

【運動会】

- ・屋外や体育館では、先生からの距離が遠いだけでなく、雑音があったり、音が反響したりするため、教室より指示を聞き取るのが難しくなる。説明や指示の際には、ホワイトボードや図などの視覚情報も活用すると理解しやすい。特に初回の隊形移動の練習などは、事前に図で確認してから行うとスムーズ。
- ・指示の合図も、ホイッスルだけではなく、視覚的にも分かりやすいタンバリンや太鼓、手なども活用する。
- ・短距離走ではピストルの音が聞こえにくかったり、逆に響き過ぎたりすることがある。スタートの合図を旗で行う方法もある。
- ・ダンスなどの集団演技は、屋外で音源からの距離もあるため、音楽がとても聞こえにくい。隊形移動のときには先頭にならないようにする、先生が朝礼台の上で見本を示す、体を使って指示を出すなど、見て分かるサインが多いとリズムに合わせやすい。周りの動きも見える立ち位置だと安心して演技できる。
- ・聴力に左右差がある場合は、聞こえやすい耳の方向に音源や先生がくる立ち位置だと、練習時の指示や本番の音楽などが聞こえやすい。
- ・当日の放送の内容を近くの友達が伝えるようにしてくれると助かる。
- ・補聴器は汗や水に弱いので、こまめに汗を拭き、練習中の急な雨などにも注意する。



【学芸会・学習発表会】

- ・体育館などの広い空間での演技は、先生や友達の声が聞きにくくなる。台本を早めに渡し、文字で全体の流れや友達の台詞を把握させると安心できる。
- ・前の台詞を言う友達の顔が見える立ち位置だと、自分の台詞が言いやすい。
- ・体育館での鑑賞は、演技者からの距離があるので聞き取りにくい。どの人が台詞を言ったのかも分かりにくく、口元を見ての読話も難しい。他学年の演目についても、事前に台本を読ませたりして内容を把握させておく。また、前の方、マイクを使う表現であればスピーカーの近くに座らせるなどの工夫が考えられる。

【音楽会】

- ・音楽の3要素（リズム・メロディ・ハーモニー）の中では、リズムが他の要素に比べて比較的容易に捉えたり表現したりできる。メロディはなかなか難しく、正しい音程で歌うことは不得意な課題。指導用CDからの聞き取りは困難なことが多いので、聞き取りやすい先生の肉声で聞かせてメロディを捉えさせ、次に拍子を刻んだピアノ伴奏も合わせてリズムも捉えさせるなど、段階を追って指導する。
- ・楽器による得手不得手がある。トライアングルなどの高音の楽器は聞き取りにくい。リコーダーは同じ音の強さが維持され、主たる周波数の成分がはっきりと観察できるので音階が分かりやすい楽器だが指先のちょっとした加減で音が変わり、正しい音が出ているかどうか確かめにくい。鍵盤ハーモニカや木琴、太鼓などは、目で正しく演奏できたかどうか分かり、自信をもって取り組みやすい。個々の聴力に配慮し、演奏する楽器を選択する。
- ・補聴器や人工内耳の抑制機能などが働き、本来の音楽と異なる聞こえ方になったり、聞こえにくくなったりする場合がある。また、自分の演奏している音と友達の演奏している音とを聞き分けることが難しいので、複数の楽器の音を聞いて合わせることは難しい。音の強弱やリズムが分かるように記号やイラストなど視覚的に示したり、肩をたたくなどしたり、本番では指揮者が出だしの合図を送ったりして演奏させる。友達が歌ったり演奏したりしている様子を聞くために、馬蹄形に並んで互いの顔や表情、息継ぎの様子などが見て分かるようにする。
- ・ピアノを弾きながら指示を出したり板書しながら話したりすると聞き取りづらい。説明する際は、教師の顔が見えるようにする。
- ・練習場面で複数の音が聞こえている中では自分の音が聞こえにくいので、皆と少し離れたなるべく静かなところで練習させる。
- ・特定の音色（例えばピアノの高い音やトライアングルなど）が耳障りに聞こえる場合がある。「うるさい」と訴えてきたときには音源から離れた場所に移動させたり、補聴器のボリューム調整ができる場合は下げさせたりして対応する。大きな音を聞き続けて頭痛を訴えてくることもあるので、別室で休ませる。
- ・聞こえにくさがあるからといって、皆、音楽が苦手だったり嫌いだったりすることはない。合唱や合奏などで音が外れることに対する周囲のからかいなどが無いような雰囲気作りをし、音楽に対する興味・関心や意欲を高めるような配慮や工夫が大切。

